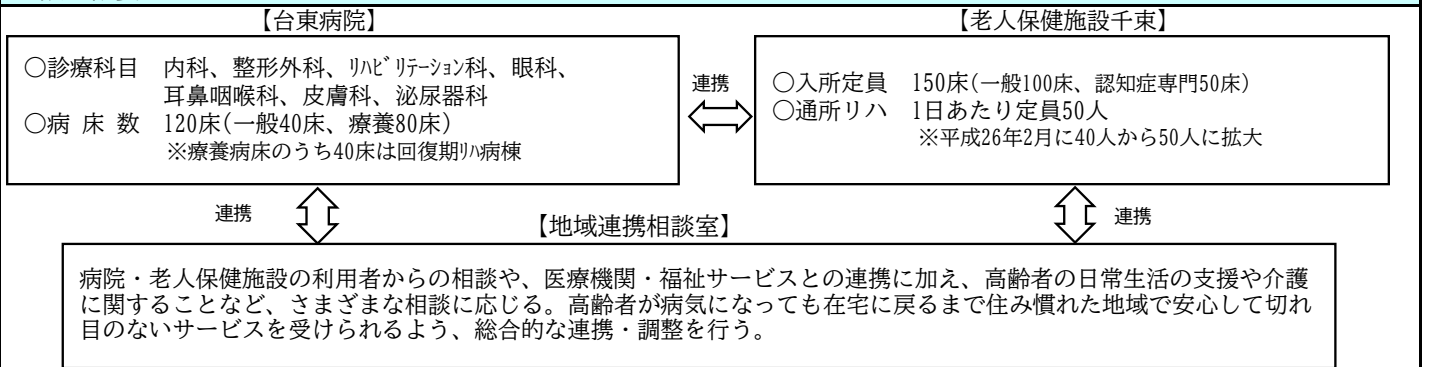


令和7年度 台東区立台東病院及び老人保健施設千束 運営評価表
(令和6年度実績の評価)

施設名	台東区立台東病院・老人保健施設千束
事業開始年度	平成21年度
開設者	台東区(病院所管課:健康部健康課、老健所管課:福祉部高齢福祉課)
指定管理者	公益社団法人地域医療振興協会
評価の目的	サービスの提供の効果等について、記録、測定又は分析し、一定の基準に照らして客観的に評価・検証することにより、業務・運営等を継続的に改善させる。
評価内容	○新台東病院等整備基本計画に定める基本理念を的確に反映しているか。 ○基本協定書に基づき、保健・医療・福祉機能とその役割を適切に果たしているか。 ○地域に開かれた施設になっているか。
評価項目	①役割・機能、②効率性・経済性、③計画性・改善状況等

1 事業の概要

施設の概要



施設の基本理念

- 高齢者が住み慣れた地域で療養できるよう、高齢者の慢性疾患に対応する病院と在宅復帰に必要な入所施設を一体的に確保します。
- 高齢者がいつまでも自分らしく、安心した在宅生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉サービスを提供します。
- 高齢者が施設や在宅に必要な保健・医療・福祉サービスを円滑に利用できるよう、サービスの担い手との連携を積極的に推進します。
- 安心して子育てができるよう、医療の面から支援します。
- 快適な療養環境や質の高いサービスを効率的に提供します。
- 『運営の透明性』、『区民に対する説明責任』を確保し、上記の理念が適切に果たされていることを区民の視点に立って評価・検証します。

基本方針

台東病院	○総合医を中心としたチームによる医療を提供します。 ○利用者本位で、満足度の高い医療を提供します。 ○関係機関との連携を推進し、安心して在宅生活が送れるよう、医療を提供します。 ○医療従事者の育成と資質の向上に努めます。 ○区の小児初期救急医療のしくみを補完します。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。
老健千束	○良質で包括的なサービスを提供します。 ○利用者の人格及び意思を尊重し、快適で質の高い療養・介護環境を提供します。 ○地域の福祉関連機関との連携のもと、円滑な在宅復帰を目指します。 ○病院に併設されていることの利点を最大限に活かします。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。

2 指定管理者の運営理念等

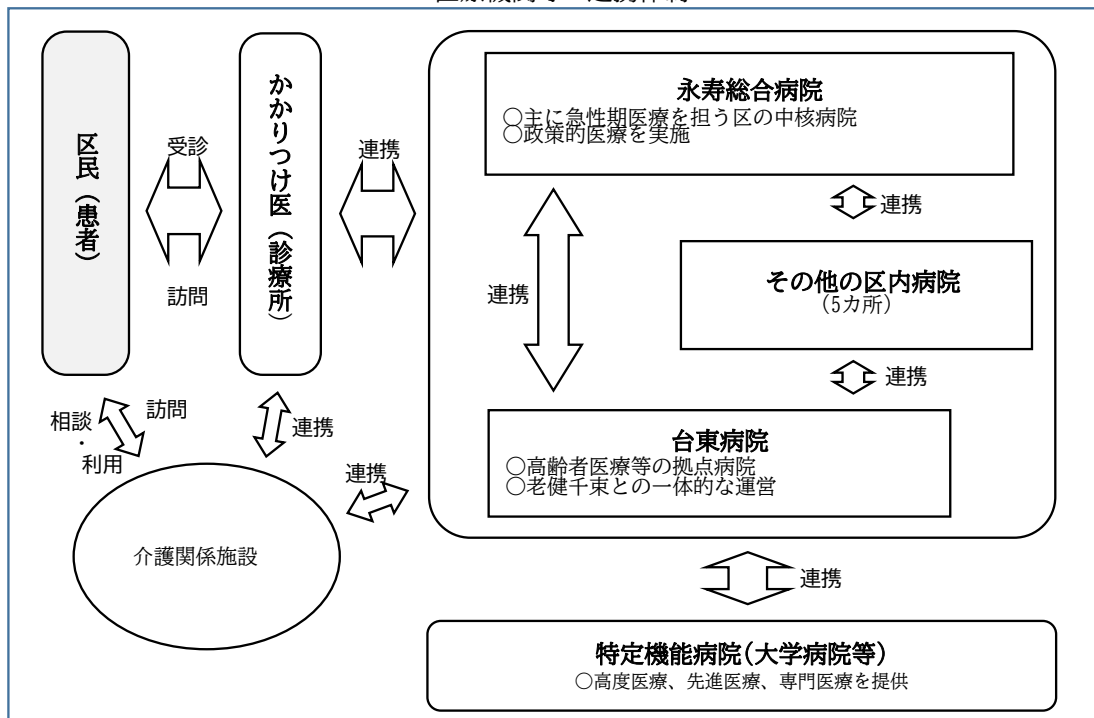
運営理念

『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します

運営基本方針

- 高齢者医療に力をいれます
- 在宅医療を支援します
- まずは受け入れるという姿勢を持ちます
- 地域と連携してサービスを提供します
- 医療に恵まれない地域の支援を行います

<医療機関等の連携体制>



3 事業の現況とその推移

(1)経営の状況

(1,000円未満を四捨五入、単位:千円)

区分		R4年度	R5年度	R6年度	前年度比	主な計上科目	
台東病院	収益	医業収益	2,097,145	2,140,160	2,155,063	14,903	入院・外来収益等
		医業外収益	499,155	111,633	101,710	△ 9,923	指定管理料・補助金等
		合計	2,596,300	2,251,793	2,256,773	4,980	
		(うち指定管理料)	18,700	18,700	18,700	0	
	費用	医業費用	2,294,808	2,235,575	2,263,933	28,358	給与費・材料費・委託費等
		医業外費用	38,976	12,123	16,622	4,499	その他の事業外費用
		合計	2,333,784	2,247,698	2,280,554	32,856	
	損益	医業損益	△ 197,663	△ 95,415	△ 108,869	△ 13,454	—
		医業外損益	460,179	99,510	85,088	△ 14,422	—
合計		262,516	4,095	△ 23,781	△ 27,876		
老健千束	収益	事業収益	922,387	936,951	1,049,398	112,447	介護保険施設介護料収益
		事業外収益	16,323	11,509	24,136	12,627	受託収益・補助金等
		合計	938,710	948,460	1,073,534	125,074	
		(うち指定管理料)	0	0	0	0	—
	費用	事業費用	1,016,446	966,957	993,427	26,470	給与費・材料費・委託費等
		事業外費用	48,112	9,312	20,956	11,644	その他の事業外費用
		合計	1,064,558	976,269	1,014,384	38,115	
	損益	事業損益	△ 94,059	△ 30,006	55,971	85,977	—
		事業外損益	△ 31,789	2,197	3,180	983	—
合計		△ 125,848	△ 27,809	59,151	86,960		
全体	収益	事業収益	3,019,531	3,077,111	3,204,462	127,351	
		事業外収益	515,478	123,142	125,846	2,704	
		合計	3,535,009	3,200,253	3,330,308	130,055	
		(うち指定管理料)	18,700	18,700	18,700	0	
	費用	事業費用	3,311,254	3,202,532	3,257,360	54,828	
		事業外費用	87,088	21,435	37,578	16,143	
		合計	3,398,342	3,223,967	3,294,938	70,971	
	損益	事業損益	△ 291,722	△ 125,421	△ 52,898	72,523	
		事業外損益	428,390	101,707	88,268	△ 13,439	
合計		136,668	△ 23,714	35,370	59,084		

収支の概要

台東病院	前年度と比べ、医業収益は延べ入院患者数の伸びもあり、1,490万円(0.7%)増の21億5,506万円、医業費用は材料費、水道光熱費等の増加により約2,836万円(1.3%)増の22億6,393万円で、医業損益は1,345万円(14.1%)減の1億887万円の赤字となった。 医業外収益は992万円(8.9%)減の1億171万円(指定管理料1,870万円を含む)、医業外費用は450万円(37.1%)増の1,662万円で、医業外損益は1,442万円(14.5%)減の8,509万円の黒字となった。 この結果、台東病院全体の損益は2,788万円(680.7%)減の2,378万円の赤字となった。
老健千束	前年度と比べ、事業収益は延べ利用者数の伸びもあり、1億1,245万円(12.0%)増の10億4,940万円、事業費用は材料費等の増加により2,647万円(2.7%)増の9億9,343万円で、事業損益は8,598万円(286.5%)増の5,597万円の黒字となった。 事業外収益は1,263万円(109.7%)増の2,414万円、事業外費用は1,164万円(125.0%)増の2,096万円で、事業外損益は98万円(44.7%)増の318万円の黒字となった。 この結果、老健千束全体の損益は8,696万円(312.7%)増の5,915万円の黒字となった。

(2)運営の状況

①役割・機能

【台東病院】

区分		R4年度	R5年度	R6年度	前年度比	備考
体制	職員数	135.0人	142.5人	141.8人	△0.7人	○年度末を基準とする ○常勤医師以外は常勤換算人数 ○職員数合計は医師、看護・介護職員、リハビリ職員の合算
	医師	17.0人	16.9人	16.7人	△0.2人	
	常勤医師	10.5人	11.5人	11.5人	0.0人	
	非常勤医師	6.5人	5.4人	5.2人	△0.2人	
	看護・介護職員	88.0人	96.6人	95.1人	△1.5人	
	リハビリ職員	30.0人	29.0人	30.0人	1.0人	
入院	病床利用率	81.5%	87.4%	89.3%	1.9%	病床利用率＝入院延べ患者数÷延べ病床数×100
	一般	75.6%	79.4%	80.4%	1.0%	
	回復期リハ	83.2%	91.8%	95.0%	3.2%	
	療養	85.8%	91.1%	92.5%	1.4%	
	延べ入院患者数	35,705人	38,393人	39,111人	718人	
	50歳代以下	9.9%	10.7%	3.9%	△6.8%	
	60歳代	6.5%	9.1%	8.0%	△1.1%	
	70歳代	22.1%	19.2%	25.0%	5.8%	
	80歳代	41.1%	41.3%	39.8%	△1.5%	
	90歳代以上	20.3%	19.7%	23.3%	3.6%	
	新入院患者数	1,030人	1,162人	1,175人	13人	令和6年度に新たに入院した患者数
	一般	832人	913人	893人	△20人	
	回復期リハ	117人	140人	152人	12人	
	療養	81人	109人	130人	21人	
	平均在院日数	34.8日	33.2日	33.2日	0.0日	延べ入院患者数÷{(新入院患者数＋退院患者数)÷2}
	一般	15.2日	14.4日	14.4日	0.0日	
	回復期リハ	67.3日	72.8日	74.7日	1.9日	
	療養	104.4日	80.3日	77.2日	△3.1日	
	台東区民の占める割合	89.2%	86.3%	88.8%	2.5%	
	回復期リハ病棟の在宅復帰率	96.2%	89.4%	89.4%	0.0%	1年間分
外来	延べ患者数	64,231人	64,435人	62,578人	△1,857人	
	1日平均患者数	219.2人	219.9人	213.6人	△6.3人	延べ患者数÷外来診療日数
	初診患者数	9,632人	10,065人	9,129人	△936人	初診料を算定した患者数
	新患率	15.0%	15.6%	14.6%	△1.0%	初診患者数÷延べ患者数×100
	台東区民の占める割合	88.4%	87.8%	88.2%	0.4%	
	初期救急患者数	1,210人	876人	924人	48人	
	救急車受入数	293人	363人	384人	21人	
	来院患者数	917人	513人	540人	27人	

【老健千束】

区分		R4年度	R5年度	R6年度	前年度比	備考
体制	職員数	85.9人	87.5人	85.3人	△2.2人	○年度末を基準とする ○全て常勤換算人数
	医師	1.5人	1.5人	1.5人	0.0人	
	介護・看護職員	73.6人	74.0人	72.8人	△1.2人	
	リハビリ職員	10.8人	12.0人	11.0人	△1.0人	
入所	入所利用率	87.9%	90.4%	97.0%	6.6%	延べ入所者数÷延べベッド数×100
	1日あたり短期入所者数	5.4人	4.1人	4.1人	0.0人	延べ短期入所者数÷365日(閏年は366日)
	延べ入所者数	48,151人	49,645人	53,107人	3,462人	延べ入所者数は長期入所と短期入所(ショートステイ)の合算
	60歳代以下	5.2%	5.5%	3.0%	△2.5%	
	70歳代	12.4%	8.0%	10.5%	2.5%	
	80歳代	43.5%	39.9%	41.0%	1.1%	
	90歳代以上	39.0%	46.6%	45.5%	△1.1%	
	平均在所日数	245.5日	226.2日	183.1日	△43.1日	入所延べ日数÷{(新規入所者数＋退所者数)÷2} ※1年間分
	回転率	12.4%	13.5%	16.6%	3.2%	月間平均暦日数÷平均在所日数×100
	台東区民の占める割合	99.9%	99.9%	92.4%	△7.5%	
通所	在宅復帰率	19.3%	46.7%	34.6%	△12.1%	退所先が自宅やグループホーム等の方の割合
	1日あたりの利用者数	25.9人	30.8人	37.8人	7.0人	延べ利用者数÷通所営業日数
	台東区民の占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	

【連携等】

区分			R4年度	R5年度	R6年度	前年度比	備考	
地域連携相談室	職員数		10.0人	10.0人	9.0人	△1.0人	全て常勤換算人数	
		社会福祉士	3.0人	3.0人	3.0人	0.0人		
		支援相談員	3.0人	3.0人	2.0人	△1.0人		
		介護支援専門員	3.0人	3.0人	3.0人	0.0人		
		事務員	1.0人	1.0人	1.0人	0.0人		
	相談件数		2,319件	2,359件	2,231件	△128件	主たる内容により区分	
		入院(一般)	832件	913件	893件	△20件		
		入院(回復期リハ)	458件	460件	504件	44件		
		入院(療養)	214件	209件	233件	24件		
		入所	657件	601件	423件	△178件		
通所		158件	176件	178件	2件			
紹介	入院患者		464人	497人	513人	16人	○検査依頼を除く、医師の紹介状(診療情報提供書)を持参した患者数 ○紹介率=(紹介状持参患者数+救急患者数)÷初診料算定患者数 (1,282+384)/(9,129+214) =17.8%	
		一般	268人	256人	238人	△18人		
		回復期リハ	117人	140人	148人	8人		
		療養	79人	101人	127人	26人		
		診療所からの紹介(再掲)	91人	107人	86人	△21人		
	外来患者		794人	804人	769人	△35人		○診療情報提供料を算定した患者数(返送患者を含む) ○逆紹介率=診療情報提供料算定患者数÷初診料算定患者数 2,619/9,943 = 26.3%
		病院から	320人	304人	321人	17人		
		診療所から	426人	422人	421人	△1人		
施設から		48人	78人	27人	△51人			
逆紹介	入院患者		412人	453人	417人	△36人	○診療情報提供料を算定した患者数(返送患者を含む) ○逆紹介率=診療情報提供料算定患者数÷初診料算定患者数 2,619/9,943 = 26.3%	
		一般	210人	238人	218人	△20人		
		回復期リハ	133人	150人	145人	△5人		
		療養	69人	65人	54人	△11人		
		診療所への逆紹介(再掲)	153人	175人	155人	△20人		
	外来患者		1,505人	1,454人	1,503人	49人		診療情報提供書を持参した患者のうち、入院後、紹介元医療機関等に返送(診療情報提供料を算定)した患者数
		病院へ	1,051人	1,046人	1,068人	22人		
		診療所へ	364人	340人	382人	42人		
施設へ		12人	16人	13人	△3人			
宛名なし等		78人	52人	40人	△12人			
返送	入院患者		69人	74人	100人	26人	診療情報提供書を持参した患者のうち、入院後、紹介元医療機関等に返送(診療情報提供料を算定)した患者数	
		一般	37人	37人	56人	19人		
		回復期リハ	22人	27人	31人	4人		
		療養	10人	10人	12人	2人		
		診療所への返送(再掲)	42人	47人	47人	0人		
入退院患者・入退所者の経路	新入院患者	自宅から	45.8%	47.9%	46.7%	△1.2%	新入院患者の総数は、令和3年度1,036人、令和4年度1,030人、令和5年度1,162人、令和6年度 1,176人	
		診療所からの紹介	8.8%	9.2%	7.4%	△1.8%		
		他病院からの紹介	30.4%	27.9%	31.7%	3.8%		
		福祉施設等から	7.5%	8.1%	7.1%	△1.0%		
		老健千束から	7.5%	6.9%	7.1%	0.2%		
	退院患者	自宅へ	41.3%	38.0%	41.6%	3.6%	退院患者の総数は、令和3年度1,056人、令和4年度1,022人、令和5年度1,146人、令和6年度 1,180人	
		診療所への逆紹介	15.0%	15.2%	13.1%	△2.1%		
		他病院への転院	9.7%	8.6%	6.0%	△2.6%		
		他病院の外来への紹介	4.4%	4.2%	5.9%	1.7%		
		福祉施設等へ	11.2%	11.5%	10.4%	△1.1%		
		老健千束へ	8.8%	9.5%	9.3%	△0.2%		
	新入所者	看取り	9.6%	12.9%	13.7%	0.8%	新入所者の総数は、令和3年度180人、令和4年度207人、令和5年度223人、令和6年度296人	
		自宅から	26.1%	22.4%	23.0%	0.6%		
		福祉施設等から	1.4%	1.8%	1.3%	△0.5%		
		台東病院から	43.5%	48.9%	37.2%	△11.7%		
退所者	他の病院から	29.0%	26.9%	38.5%	11.6%	退所者の総数は、令和3年度157人、令和4年度210人、令和5年度226人、令和6年度284人		
	自宅へ	11.9%	18.6%	19.7%	1.1%			
	福祉施設等へ	31.9%	33.2%	36.3%	3.1%			
	台東病院へ	36.7%	35.4%	29.6%	△5.8%			
緊急一時病床利用者数			113人	139人	112人	△27人	うち在宅療養患者の受入は、43人	
退院前カンファレンス件数			110件	97件	88件	△9件	多職種による検討会の実施件数	
訪問リハビリテーション延べ利用者数			2,980人	2,210人	2,139人	△71人	平成23年2月より実施	

②経営分析

区分		R4年度	R5年度	R6年度	前年度比	備考	
台東病院	経常収支比率	111.2%	100.2%	99.0%	△1.2%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%	指定管理料÷総費用×100	
	医業収益に対する職員給与費比率	69.6%	65.2%	65.0%	△0.2%	職員給与費÷医業収益×100	
	医業収益に対する委託費比率	9.0%	8.4%	7.9%	△0.5%	委託費÷医業収益×100	
	医業収益に対する材料費比率	15.1%	17.1%	18.0%	0.9%	材料費÷医業収益×100	
	病床利用率	81.5%	87.4%	89.3%	1.9%	入院延べ患者数÷延べ病床数×100	
	1日外来患者数	219.2人	219.9人	213.6人	△6.3人	延べ患者数÷外来診療日数	
	入院患者1人1日あたり診療収入	37,934円	36,895円	36,933円	38円	入院収益÷入院延べ患者数	
	外来患者1人1日あたり診療収入	8,566円	8,360円	8,371円	12円	外来収益÷外来延べ患者数	
	医師1人1日あたり診療収入	318,871円	315,507円	337,194円	21,687円	(入院収益＋外来収益)÷年延べ医師数(看護・介護職員数)	
	看護・介護職員1人1日あたり診療収入	53,430円	55,960円	61,101円	5,141円		
	CT	稼働率	51.6%	62.1%	56.9%	△5.2%	稼働率＝検査件数÷(1日あたり検査可能件数(20件)×外来診療日数)×100
		検査件数	3,025件	3,637件	3,333件	△304件	
		うち検査依頼受付件数	333件	302件	373件	71件	
MRI	稼働率	62.9%	67.7%	72.6%	4.9%	稼働率＝検査件数÷(1日あたり検査可能件数(11件)×外来診療日数)×100 ※令和5年度までは、1日あたり検査可能件数12件	
	検査件数	2,211件	2,381件	2,339件	△42件		
	うち検査依頼受付件数	447件	503件	495件	△8件		
老健千束	事業収支比率	88.2%	97.2%	105.8%	8.6%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0%	0%	0%	0%	指定管理料÷総費用×100	
	事業収益に対する職員給与費比率	71.3%	67.9%	61.8%	△6.1%	職員給与費÷事業収益×100	
	事業収益に対する委託費比率	12.0%	12.0%	10.9%	△1.1%	委託費÷事業収益×100	
	入所利用率	87.9%	90.4%	97.0%	6.6%	入所延べ患者数÷延べベッド数×100	
	1日通所利用者数	25.9人	30.8人	37.8人	7.0人	延べ利用者数÷通所運営日数	
	入所者1人1日あたり事業収益	17,050円	15,696円	16,893円	1,197円	入所収益÷入所延べ患者数	
	通所者1人1日あたり事業収益	12,432円	12,019円	11,088円	△ 931円	通所収益÷通所延べ患者数	

③計画性・改善状況等

区分		R4年度	R5年度	R6年度	前年度比	備考
講演会		6件	13件	13件	0件	喫煙防止教室
その他区民向けイベント		7件	7件	10件	3件	病院祭・認知症カフェ(7件)
投書件数		11件	37件	35件	△2件	
	謝意	4件	20件	15件	△5件	
	助言	3件	5件	8件	3件	
	苦情	4件	12件	12件	0件	
主な意見と対応						
【謝意】 ○ ・体調のことも気にかけてもらい、職員が良い人ばかりで本当に良かった。 ・外来看護師が、いつも優しく接してくれて待ち時間も少し忘れられる。 体調のことも気にかけてもらい、声を掛けて頂き皆さん優しい。 ・今までは他の病院で胃カメラを受けていたが知り合いから聞いて評判が良いと聞き、今回からこちらで受けることとした。						
【助言】 ○ ・駐車場の機械が壊れていて不便です。⇒機器を撤去し、入出庫カメラでの運用に変更。 ・売店前に椅子とテーブルを戻して欲しい。⇒2階売店奥に「イートインコーナー」を設置。						
【苦情】 ○ ・面会時、リハビリ中であったため会うことができなかった。⇒面会可能であることをお伝えした。 ・洗面台の水漏れ(ポタポタしている)が気になっている。⇒直ちに修理を行った。						

④その他

居宅介護支援事業所千束(自主事業)

介護支援専門員は継続的に1名体制で運営している。介護給付管理管理件数は31.0件／月で推移した。
(前年度30.5件／月)
本年度も従前通り病院併設のメリットを生かしつつ外来等で介護保険サービスに繋がっていない高齢者等へのサービス導入の為に地域包括支援センター等と積極的な連携を实践をした。
また、他事業所にて対応が困難な医療行為等がある在宅患者や処遇困難事例のケース対応も継続的に担っている。

4 評価

【評価の段階】

A	目的・要求等を十分に満たしている状態
B	目的・要求等を概ね満たしている状態
C	目的・要求等に対し補う必要がある状態

(1)役割・機能の評価

①台東病院が主に高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能しているか		
【参考指標】患者実績など		
事業者 評価 A	根拠	病院全体の病床利用率は前年比1.9ポイント増加の89.3%、回復期病棟は病床利用率3.2ポイント増加の95.0%、療養病棟は同、1.4ポイント増加の92.5%と高稼働で推移することができた。 また、令和5年度同様に訪問診療医からの依頼により、在宅療養患者を夜間休日含め延べ38人、近隣特養からは延べ68人の緊急受入を行うとともに、継続的に特養に対する嘱託医派遣を実施している。 更に区内特養との間で、協力対象施設入所者入院加算を算定し、施設間と定期的な情報共有を行っている。
協議会 評価 A	根拠	病院全体の病床利用率は改善し、前回報告時と同様に高い水準を維持している。加えて、在宅療養患者の緊急入院を夜間、休日に対応している点は、訪問診療を行う地域の医療機関をバックアップする取組として高く評価できる。さらに、近隣特養からの緊急受入や区内の特養に対する嘱託医の派遣も継続的に実施されている。以上のことから、高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。
②台東病院・老人保健施設千束が在宅復帰・在宅療養を支援する施設として機能しているか		
【参考指標】入所者実績、リハビリテーション実績など		
事業者 評価 A	根拠	台東病院の新規入院件数は前年比13件増加の1,175人で、緊急一時病床利用者数も112人（内在宅療養患者は43人）の入院を受け入れた。 台東病院においては、新型コロナの影響により、一般病棟において緊急入院を一時的に制限することもあったが、同期間中においても、救急患者を回復期病棟で5名、療養病棟で3名受入れを行い、病棟機能を途切れることなく維持することができた。 また、令和6年4月から重症心身障害児（者）短期入所事業を開始、6月より受入れを行い延べ62日間の利用に至り、次年度以降も継続的な受入れを推進している。 老健千束においても新型コロナの影響により、在宅復帰率の減少はあるが、適切な空床管理の徹底により、利用率97%及び高回転率で運営することができた。 在宅療養支援についても入所前後訪問80件、退所前後訪問55件、退院前連携会議32件を行い利用者の退所後の生活を見据えた支援を多職種及び在宅サービス事業者等と連携しながら取り組み、途切れのない地域包括支援システムの機能を担った。
協議会 評価 A	根拠	新型コロナの影響により、一般病棟では一時的に緊急入院を制限することもあったが、他病棟との受入調整を適切に行い、病棟機能を途切れることなく維持出来ている。 さらに、新規事業として重症心身障害児（者）のショートステイを開始し、当事者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう家族の負担軽減に寄与している点も高く評価できる。 また、老健千束においては、在宅復帰率が減少したものの、適切な空床管理の徹底により、高い利用率を維持している。以上のことから、在宅復帰・在宅療養を支援する施設として機能していると評価できる。
③医療機関等との連携は適切に行われているか		
【参考指標】医療連携の実績など		
事業者 評価 A	根拠	医師会、台東区健康課、台東病院間で令和4年1月からモデル事業としてスタートした「台東病院在宅療養患者登録制度」は、令和7年3月末時点では登録医療機関7施設、登録患者数延べ30名、入院患者数は延べ8名となり、事業の継続及び医師会との協議を継続的にやっている。 また、台東区の推薦により「在宅療養において積極的役割を担う医療機関」に指定され、次年度に向けて更に積極的な医療機関との連携を行っている。 その他の取組としては、永寿総合病院脳神経内科と連携し、城東脳卒中連絡協議会への参加や区内病院連絡会議、区内病院看護部長会議等、多方面で多角的に医療機関との積極的な連携業務を継続して実施している。
協議会 評価 A	根拠	「台東病院在宅療養患者登録制度」は、登録医療機関数の増減は無かったものの、登録患者数及び入院患者数は、増加しており、着実に成果をあげている。さらに、「在宅療養において積極的役割を担う医療機関」に指定されたことは、台東区の在宅療養を支える病院として、今後への期待が高まる。 また、区内病院連絡会議や看護部長会議等にも引き続き積極的に参加している。以上のことから、医療機関等との連携は適切に行われていると評価できる。

【備考】	
日本医療機能評価機構の病院機能評価について令和元年5月2日に認定を取得後、令和6年5月1日で認定期間が満了となった。今後については検討中であるが、空調設備工事期間の受審は難しいため、当面は地域医療振興協会本部の内部監査や会計監査法人の監査を受けることにより業務の質を高めていく。老健千束では、令和3年2月に第三者評価を受審している。	

(2)効率性・経済性の評価

①台東病院・老人保健施設千束の施設・機器等を効率的に活用しているか	
【参考指標】経営分析結果(高額医療機器の稼働率)など	
事業者 評価 A	根拠 台東病院におけるCT、MRI等的高額医療機器の近隣医療機関からの依頼状況は、地域のニーズに応じて、可能な限り当日検査実施、即日の結果レポート報告の体制を維持し近隣医療機関の利便性の向上に努め、令和6年度はCT検査依頼は71件増加の373件、MRI検査依頼は8件減少の495件(新型コロナ流行下の令和4年度は447件)で推移した。 老健千束に関しては従前通り、多職種により利用検討会議(入所前カンファレンス)を開催し、一般療養棟と認知症専門療養棟の適切な活用により、利用率は97%(入所者数 296人、退所者数 284人、緊急ショートステイ 28人)を達成し、効率的な施設運用を行うことができた。それに伴い、回転率の向上、平均在所日数も短縮された。また、本人や家族の要望や課題を個別的に考慮して、ショートステイから入所への切替え対応13件(令和5年度は5件)看取り対応が33件(令和5年度は23件)と利用者のニーズに応える施設運営を実施した。
協議会 評価 A	根拠 CT、MRI等的高額医療機器については、近隣医療機関のニーズに応じて、可能な限り当日検査を実施し、即日の結果レポート報告体制を維持することで利便性の向上に努めている。 老健千束では、多職種による入所前カンファレンスを実施し、一般療養棟と認知症専門療養棟の適切な活用を推進することで高い利用率を達成している。 また、本人や家族の要望や課題を個別的に考慮して、ショートステイから入所への柔軟な切替え対応を行うなど、施設運営において柔軟性を重視している。以上のことから、施設・機器等を効率的に活用していると評価できる。

②台東病院・老人保健施設千束の一体的な事業運営の効率性は発揮されているか	
※医業外及び事業外収支は評価対象外	
【参考指標】経営分析結果など	
事業者 評価 A	根拠 病院は令和5年度と比べ、医業収益は1,490万円(0.7%)増の21億5,506万円、医業費用は約2,836万円(1.3%)増の22億6,393万円で、医業損益は1,345万円(14.1%)減の1億887万円の赤字となった。 老健千束は前年度と比べ、事業収益は1億1,245万円(12.0%)増の10億4,940万円、事業費用は2,647万円(2.7%)増の9億9,343万円で、事業損益は8,598万円(286.5%)増の5,597万円の黒字となった。一体的な事業運営を目指し、職員採用や各種委員会、研修等の一元的な管理を継続するとともに新型コロナ対策においても、合同で臨時感染対策会議を開催し、対応の徹底と情報共有を行った。 また、複合施設の利点を活かし、台東病院から老健千束への入所者数は延べ110人、老健千束から台東病院への入院患者数は延べ84人(内、新型コロナ患者は25名)と相互で一体的な事業運営を継続実施している。
協議会 評価 A	根拠 病院の医業収益は、高い病床利用率を維持したことなどにより改善したものの、物価高騰の影響で医業費用が増加し、医業損益は赤字となっている。 一方、老健千束は、新型コロナの影響を受けつつも、効率的なベッドコントロールや地域の医療機関への営業強化により、事業収益を大幅に改善させている。物価高騰の影響で多くの医療機関が厳しい経営状況に置かれる中で、病院と老健という複合施設の強みを活かしており、一体的な事業運営の効率性が発揮されていると評価できる。

(3)計画性・改善状況等の評価

①前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか

事業者 評価 A	根拠	前年度意見 ○BCP策定について ⇒昨年は、防災マニュアルをBCPに改定中であったことから、自己評価をBとし、ご意見を賜っていた。引き続き改定作業を行っているが、改定中のマニュアルを使用して病院・老健一体でのBCP災害訓練を令和7年3月に実施した。 ○「②台東病院・老人保健施設千束の一体的な事業運営の効率性は発揮されているか」について ⇒新型コロナ関連補助金が無くなったことにより赤字となったため自己評価をBとし、ご意見を賜っていた。また、クラスター発生時における病院の運営上の課題についてご指摘を頂いた。令和6年度も病院・老健において新型コロナの発生があったが、都度病院・老健で対策会議を開き、一般病棟など効率的に病床を運用することで感染拡大を防ぎ、病院・老健全体として経営に大きな影響は出なかった。 ○③外来待ち時間対策について ⇒対策としてデジタルサイネージ、検査室の早番制度導入の対策を実施したことを報告した。令和6年度の待ち時間に対するご意見は1件となっており、対策がある程度有効であったと感じているが、対策は引き続き検討していく。
協議会 評価 A	根拠	BCPについては、現在も改定中ではあるが、大規模災害の発生リスクが高まっていることを踏まえ、改定中のBCPを活用し、施設全体で災害訓練を行っている。 また、新型コロナのクラスターは、依然として発生しているが、これまでの経験を活かし、迅速な対応が来ている点は、組織として非常に強化されていると評価できる。 待ち時間対策についても、継続的な対応を通じて、一定の効果が見られ、改善が進んでいると推測できる。以上のことから、前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしていると評価できる。

②利用者や区民の意見を取り入れ、台東病院・老人保健施設千束の運営や、利用者の満足度向上に活かしているか

【参考指標】利用者からの主な意見と対応など

事業者 評価 A	根拠	患者様からの投書は令和5年度よりも2件減少したが、助言が令和5年度より3件増え、それを活かし患者へのより良いサービス向上に努めることができた。投書の内容は、引き続き幹部会議で報告、委員会では対応を検討している。回答を掲示すべきものについては、掲示し、個別に回答が必要な場合は、個別の対応をしている。患者満足度調査については、入院患者に対する調査で母数が増えたが、「5」と「4」の評価割合は75%台で前年度とほぼ変わらない評価となっている。選択回答、自由記載欄の中で多いものから取り上げ、院内で検討し改善につなげている。
協議会 評価 A	根拠	投書の件数は、減少したものの、患者からの要望や意見については、適切な対応がなされている。特に、患者が利用する駐車場やイトインコーナーに対する要望については、患者満足度に大きく影響する点を踏まえ、迅速な対応をした点が評価できる。

③区立の病院・老人保健施設として、他機関では対応が困難なケースの受入れや区民向けに特化した事業等、採算性にとらわれず事業を実施しているか

事業者 評価 A	根拠	令和5年度同様に台東区高齢福祉課や地域包括支援センターからの依頼を受けて虐待ケースや身寄りのない高齢者の区長申立による成年後見人等の選任協力等、病院、老健千束が協働し各フロアの機能を最大限活用し支援の継続を行っている。 また、令和6年度からは重症心身障害児(者)短期入所受入事業を開始し、地域高齢者支援に留まらず障害児(者)の家族支援事業に取り組んだ。 老健千束においては、引き続き、HIV陽性者の受け入れ体制を継続しており、令和6年度についても都内国立大学病院から男性1名の患者を受け入れた。
協議会 評価 A	根拠	虐待ケースや身寄りのない高齢者に対する区長申立による成年後見人選任の協力など、病院と老健千束が協働し支援を継続している。 老健千束では、他の施設での受け入れが困難なHIV陽性者の受け入れ体制を引き続き維持している。 また、新規事業として、重症心身障害児(者)のショートステイを開始したことで、高齢者だけでなく、障害者の家族に対するレスパイト支援にも取り組んでいる。これらの取組は、採算にとらわれず区民の福祉向上を目指した事業を実施していると評価できる。

④医療従事者の安定的な確保、職員の能力開発や職場の人材育成、組織の持続的成長や環境の変化への適応など、理念を実現する取組を推進しているか

事業者 評価 A	根拠 例年と同様に、看護師や介護士確保のため、学校訪問の実施や就職セミナーに参加する等、新卒採用を含め人材確保の取組、介護領域における外国人採用も継続的に行っている。 また、看護、介護職だけではなく理学療法士、作業療法士の確保に向け都内のみならず地方の大学への学校訪問も行い新卒採用を行った。事務職については、専門学校とも連携しているが、予定している採用人数に至らず、本部からの研修目的の配属も無い厳しい状況にある。人材育成等については、新規採用時から複数年の研修計画を部門毎に作成することとし、多職種で連携した教育に取り組んでいる。 薬剤師については、他施設と共同し毎年新卒者数名、2年間の薬剤師レジデントプログラム通して高度急性期から慢性期の教育を行っている。 第2水曜日に開催する事業推進会議、毎月一日の全体朝礼では、台東区内での他医療機関、他施設との連携、経営状況、運営状況に関して共有し、当施設の現在地を知るような機会となっている。 健康推進委員会では、食に関すること、近隣美化に関することを取り上げ、参加することで人間育成に役立てるようになっている。 さらに、地域で行われている祭やイベントでお互い参加の機会を持ち、地域との関わりを大切にし、台東区の文化を学ぶ機会を作っている。
協議会 評価 A	根拠 看護師や介護士、理学・作業療法士等の専門職の確保については、都内のみならず、地方の学校にも訪問し、積極的な採用活動を行っている。また、介護領域では外国人採用も継続的に行っている。薬剤師については、他施設と共同で、薬剤師レジデントプログラムを通して高度急性期から慢性期に至るまでの教育を行っている。これらの専門職の採用活動は一定の効果をあげているが、事務職については、必要な職員数の確保が難しく、運営には厳しい状況が続いている。一方で、採用後の人材育成については、部門ごとに複数年の研修計画を作成し、多職種で連携し職員教育に取り組んでいると評価できる。 また、地域の祭やイベントに職員が積極的に参加するだけでなく、地域住民が病院のイベントに参加する機会も設けることで、地域とのつながりを深め、さらに多様な人材育成を促進している点が評価できる。

5 総合評価等

【総合評価】

【台東病院について】

病院全体の病床利用率は前回報告時と同様に高水準を維持しており、引き続き改善が見られる。地域の医療機関を支える取組として、在宅療養患者の急変時に備えた夜間・休日の入院受入を実施しており、在宅療養患者登録制度の登録患者数及び入院患者数も増加するなど、着実な成果をあげている点は高く評価できる。また、近隣特養からの緊急受入や、区内の特養への嘱託医派遣の継続実施により、高齢者の慢性期医療を担う拠点病院としての機能を果たしている。さらに、新たな取組として開始された「重症心身障害児(者)短期入所事業」は、当事者及びその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援しており、家族の負担軽減に寄与している点も高く評価できる。

【老人保健施設千束について】

新型コロナウイルス感染症による散発的なクラスターの発生の影響により、在宅復帰率は一時的に低下したものの、適切な空床管理を行うことで97%の高い利用率を維持している。加えて、地域の医療機関への積極的な営業活動により施設の高回転率を実現している。また、昨年度に引き続き、都立病院感染症科と連携し、HIV陽性者や感染症を有する要介護者の長期入所を可能とする体制を整備するなど、採算性にとらわれず地域医療のニーズに応える姿勢も高く評価できる。

【収支について】

患者数及び利用者数の増に伴い、医業収益、事業収益ともに増加したものの、物価高騰の影響による費用増加に加え、台東病院においては補助金の減少も重なり、全体として収支は赤字となった。

【人材の確保について】

専門職の確保については、様々な取組により一定の成果がみられる。一方で、事務職の確保については、依然として厳しい状況が続いている。人材育成面では、計画的な研修の実施に加え、地域のイベントへの参加を通じて、職員が台東区の文化に触れる機会を創出し、地域との関係性を重視した多角的な育成を行っている点は評価できる。

【今後に向けて】

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、今後も利用者や運営協議会等の意見を踏まえ、区や地域の医療機関等と連携を図りながら、質の高いサービスの提供を図ることが求められる。

【その他意見】

- 重症心身障害児(者)の短期入所事業については、家族の負担軽減に繋がるので受入数の増に努めてもらいたい。
- 老健千束で実施しているHIV陽性者の入所受入については、都内でも実施例が少ないため、継続して実施してもらいたい。
- 人材確保が困難になる中で、一般的な医師のレジデントではなく、薬剤師のレジデントを受け入れる取組は、効果的である。